

R4 年度 中高連携事業の実績について

丹波篠山市教育委員会

近年、市内高校の入学希望者が募集定員に満たない事象が生じている中、令和3年度より中学校及び高校と連携しながら、市内高校の魅力づくりへの支援や学校紹介等に取り組んでいる。

令和4年度の取り組み実績は下記のとおり。

①丹波篠山市中高連絡会

課題の共通認識や対応策を検討するために、中高の校長及び教育長で意見交換を行った。

(第1回) 4.28 協議内容：R4年度の取り組み内容確認、協議

(第2回) 8.26 協議内容：R4年度の取組について意見交換等

- ・中学校での高校説明会について→感想や改善点等について意見交換し、次年度の実施（各校で開催、時間は1コマ、5月下旬～6月中旬）を確認。
- ・オープンハイスクールについて→近隣の県立高校の実施内容を共有するとともに、感想や改善点等について意見交換し、今後の取組に生かすことを確認。

※改めて、現状と課題等について意見交換し、共通認識を図った。

- ・3高校の現状認識（強み、弱み）について→自己評価と他者評価の乖離を確認（客観視）したうえで、強みを生かし、弱みを改善する取組につなげていくことを確認。
- ・高校選択理由について
 - 【市内3高校の選択理由（抜粋）】
 - ・将来の夢、目標実現のための勉強ができる、資格がとれる
 - ・通学の利便性
 - ・卒業後も地元で活躍したい。地元で貢献したい 等
 - 【市外高校の選択理由（抜粋）】
 - ・将来の夢、目標実現のための勉強ができる、資格がとれる
 - ・通学の利便性（JR沿線に居住）
 - ・違う地域を経験したい。視野を広げたい。都市部で揉まれたい
 - ・その他（部活動、兄弟・先輩が通っている） 等
- 高校進学理由を共有、確認するとともに、進路指導で市外の高校を勧めていることはないこと、引き続き適切な進路指導をしていくことを確認。
- ・自分たちでできること、それぞれに期待することについて
 - それぞれが現状把握に基づき、主体的に取り組むことを確認。
 - 既存事業の継続・深化を図っていくとともに、情報発信を強化していくことを確認。
 - 高校個別の取組（授業・部活動交流等）については、各中学校と調整しながら取り組んでいくことを確認。

(第3回) 1.31 協議内容：R4年度の振り返り、R5年度の取組協議等→継続実施を確認

②中学校での高校説明会

市内3高校が各中学校を訪問し、中学3年生に先輩のメッセージを含む動画等により学校紹介・オープンハイスクール（鳳鳴高：7/29、8/8、9/23、11/3 産業高：8/2、8/3、10/29 東雲高：8/3、11/13、12/10）への参加を呼びかけた。 ※説明会（篠山中）は動画でも配信。

- ・6/1：篠山中学校（生徒+保護者1名）
- ・6/8：今田中学校（生徒+保護者1名）
- ・6/13：篠山東中学校（生徒+保護者4名）
- ・6/14：丹南中学校（生徒+保護者15名）
- ・6/15：西紀中学校（生徒+保護者4名）



【中学生の声（抜粋）】

- ・自分がしたい、学びたいと思っていることが丹波篠山でもできることを知ることができた。どこを受験しようかというのをオープンハイスクールも通してしっかり考えようと思った。
- ・2年生時も夢プランがあったが、3年生になって市内高校の説明を受けてみると重みが違った。
- ・すべての高校に特色や良い点があり、今までよりも丹波篠山の高校に進学したくなった。
- ・市内には自分の進みたい進路に進める高校がたくさんあることがわかった。
- ・どの高校も魅力があって丹波篠山の高校はすごいとわかった。オープンハイスクールに行ってもっと魅力を知り、将来のことを決めたい。
- ・部活や卒業後の進路のことも知れたので良かった。
- ・先輩などの感想でどんな感じかが聞けてとても良かった。
- ・どの高校もいろんな特色があって魅力的だと思った。もう一度どういう目的で高校に行くのかをしっかりと考えたい。

③市内3高校の魅力周知

- ・市広報紙7月号（6/21 配付）・11月号（10/21 配付）特集記事で、市内3高校の魅力や特色を紹介。
→別刷りの上、中学3年生や中学校に配付。

- ・市内高校啓発ポスター作成

→中学校や公共施設、路線バス、自治会、市内の店舗等で掲示。

※篠山ロータリークラブの協力で同デザインのクリアファイルを全中学生及びR5中学校1年生に配付。

- ・市のLINE・HPで3高校の魅力を発信（随時）

- ・丹波篠山市高等学校支援事業

高校の情報発信や魅力アップにつながる活動、調査研究等、自主的な取り組みを支援（1校あたり30万円を交付）。



④その他

- ・市内幼少中高連携の取組整理

ふるさと意識の醸成、高校を身近に感じることができる貴重な機会として再確認した上で、交流の中でしっかりと魅力ある高校・高校生の姿を伝えていくことで、児童生徒や家庭、地域における市内高校の認知度向上につなげていくことを確認。